

2019年6月17日

あおぞら投信株式会社

「中間層 求めることの 味いは 楽しく美味しく 便利一番」

経済成長が進むアジアでは中間層が増えており、新たなサービスや商品の伸びが注目されています。20世紀には高度成長時代の日本においても様々な商品が生み出されていきましたが、今のアジアでの変化は、よりスピードが加速していることが特徴となっています。これはテクノロジーの進歩が物事の変化を進めていることと、成長が遅かった地域ほど、より変化しやすいことも手伝っていると言えます。またシンガポールのようにスマートシティ※1最速国として先行している国もあり、多様性があることも特徴にあげられます。

昨年(2018年)6月には米国のトランプ大統領と朝鮮民主主義人民共和国の金國務委員長の首脳会談の舞台となったシンガポールは、国際的にも安定的な評価を得ており、格付けはAAA※1の国です。同国における2018年のトレンドランキング※2 1位は『クレイジー・リッチ』の大ヒットです。原作者、監督、出演俳優など、ほとんどのスタッフがアジア系で製作された、ハリウッド映画としては異例の作品でした。全米でも週末興行1位となるなど世界的にも注目を集め、インバウンドへの貢献もありました。他の国のトレンドランキングでは、2025年には世界の人口になると予想されるインドでは1位が「フードデリバリー市場」、2位に「クラフトビール」、4位に「インド古来のスーパーフード」と食文化とeコマースのコラボが見られます。またタイでは、日本発祥のご当地アイドル「BNK48」が1位、好きな時に観たい番組が観られる「LINE TV」が2位など、ASEANのトレンドを作るインターネット先進国の姿を見せています。各国がそれぞれの違いを示しつつ、カギを握るのはフード、エンターテインメントとIoT※2、そして利便性の追求ではないかと思えます。そしてタイのように“日本”が訴求力を持っていることも私たちにとって大いなるヒントなのです。

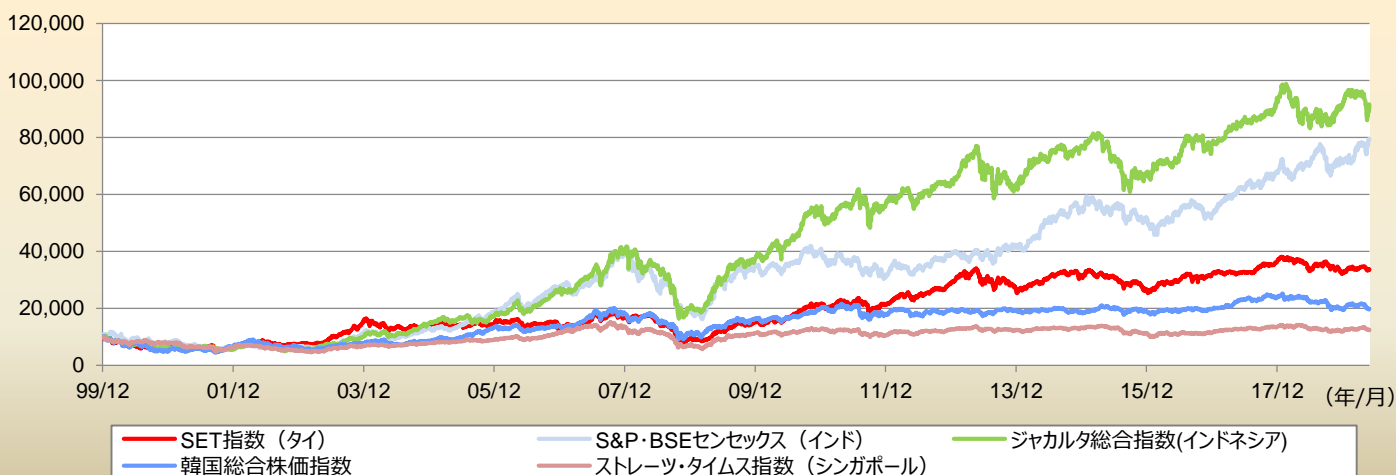
出所：※1：フィッチ・レーティングス等格付け会社 ※2：TNCアジアトレンドラボ

※1：IoT※2の先端技術を用いて、基礎インフラと生活インフラ・サービスを効率的に管理・運営し、環境に配慮しながら、人々の生活の質を高め、継続的な経済発展を目的とした新しい都市をいう。

※2：パソコンやサーバーといったコンピューター以外の多種多様な「モノ」がインターネットに接続され、相互に情報をやり取りすること。

柳谷俊郎

アジア各国（タイ・インド・インドネシア・シンガポール・韓国）の株式指数推移（1999年12月末～2019年5月末）



※1999年12月末値を10,000として指数化、指数は配当含まず。

出所：タイ証券取引所、Asia Index Pvt.、インドネシア証券取引所、韓国取引所、シンガポール証券取引所のデータおよび各種報道を基にあおぞら投信が作成。

本資料は情報の提供を目的としており、何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。ここに示された意見などは、本資料作成日現在の当社の見解であり、事前の予告なしに変更される事もあります。投資信託の取得に当たっては、投資信託説明書(交付目論見書)等の内容を必ずご確認の上、ご自身でご判断ください。

商号：あおぞら投信株式会社 金融商品取引業者：関東財務局長(金商)第2771号

加入協会：一般社団法人投資信託協会 ホームページ・アドレス：<http://www.aozora-im.co.jp/>